

[株主のみなさまへ]

第20期 第2四半期 決算のご報告

2023年4月1日から9月30日まで

証券コード:6674

Renewable

2nd Quarter Digest

第20期(2024年3月期) 第2四半期 連結業績ハイライト

売上高

2,568億円
前年同期比 +9.2%

営業利益

126億円
前年同期比 +54.1%
のれん等償却前営業利益
129億円

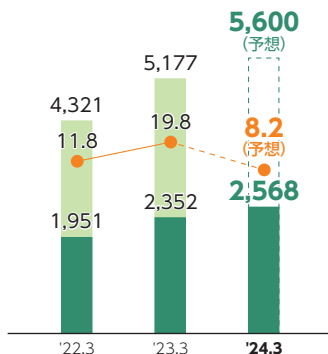
経常利益

119億円
前年同期比 +99.4%

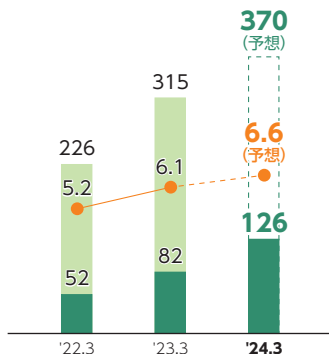
親会社株主に帰属する
四半期(当期)純利益

59億円
前年同期比 +247.7%
のれん等償却前親会社株主に
帰属する四半期純利益
61億円

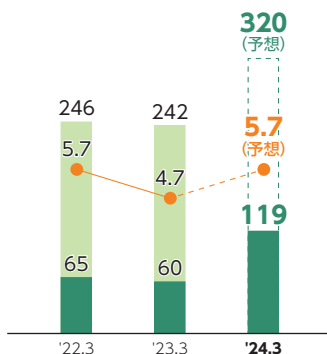
売上高(億円) ■ 2Q ■ 通期
売上高成長率(%) ● 通期



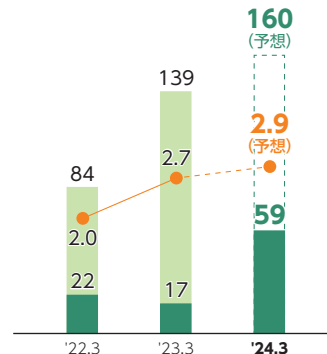
営業利益(億円) ■ 2Q ■ 通期
営業利益率(%) ● 通期



経常利益(億円) ■ 2Q ■ 通期
経常利益率(%) ● 通期



四半期(当期)純利益(億円) ■ 2Q ■ 通期
当期純利益率(%) ● 通期



売上高・営業利益のポイント

- ハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量が増加
- 販売価格は正による効果

経常利益・四半期純利益のポイント

- 持分法による投資損益の改善
- 為替差損益の改善

第20期(2024年3月期) 連結業績予想

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益
通期	5,600億円	370億円	320億円	160億円

ポイント

- 中国事業の譲渡影響および車載用リチウムイオン電池事業での新規納入案件の期ズレを売上高に反映
- 自動車電池および産業電池電源事業での売価見直しの影響を営業利益に反映
- 特殊電池およびその他事業の航空機用リチウムイオン電池の好調や管理部門の経費削減を営業利益に反映

Top Message

全セグメントで増収増益となり、 売上高・各利益が過去最高となりました。

平素より格別のご高配、ご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界経済は、サプライチェーンの回復が進み、自動車生産台数が回復に向かう等、緩やかに持ち直しの動きが見られますが、物価の上昇によるインフレが継続しています。世界的に金融引締め政策が実施されており、景気下振れリスクや、金融市場の変動等、先行き不透明な状況が続いています。

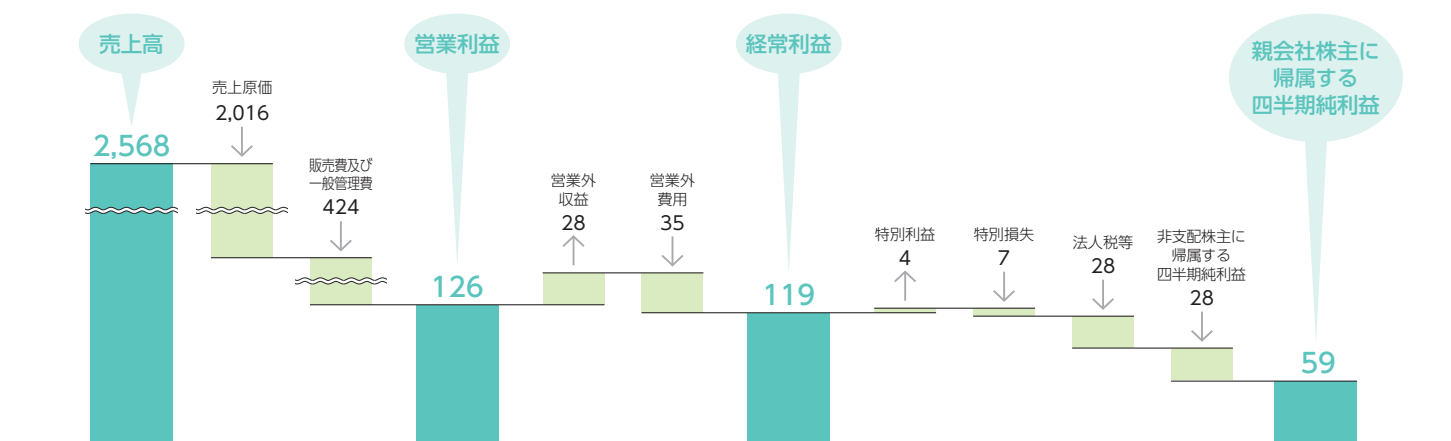
このような経済状況の中、当社グループでは、主としてハイブリッド車用リチウムイオン電池の販売数量が増加していることや、販売価格是正の取り組みを進めていることにより、当第2四半期連結累計期間の売上高は、2,568億5百万円と前第2四半期に比べて215億81百万円増加(+9.2%)しました。これに伴い、営業利益は126億74百万円(のれん等償却前営業利益は129億32百万円)と前第2四半期に比べ44億50百万円増加(+54.1%)しました。経常利益は持分法による投資損益や為替差損益の改善などにより、119億93百万円と前第2四半期に比べて59億78百万円増加(+99.4%)しました。親会社株主に帰属する四半期純利益は59億58百万円と、前第2四半期に比べて42億44百万円増加(+247.7%)しました。

第2四半期の売上高は、主として産業電池電源の販売減少により前回予想を下回りましたが、販売価格是正の取り組みが順調に推移したことや、営業外収益で持分法による投資利益が改善したことなどにより、各利益段階ともに前回予想を上回りました。そのため2023年度の通期業績予想を見直すこととし、売上高5,600億円、営業利益370億円、経常利益320億円、親会社株主に帰属する当期純利益160億円を予想いたします。今後も引き続き、販売価格是正などの取り組みを進めてまいります。

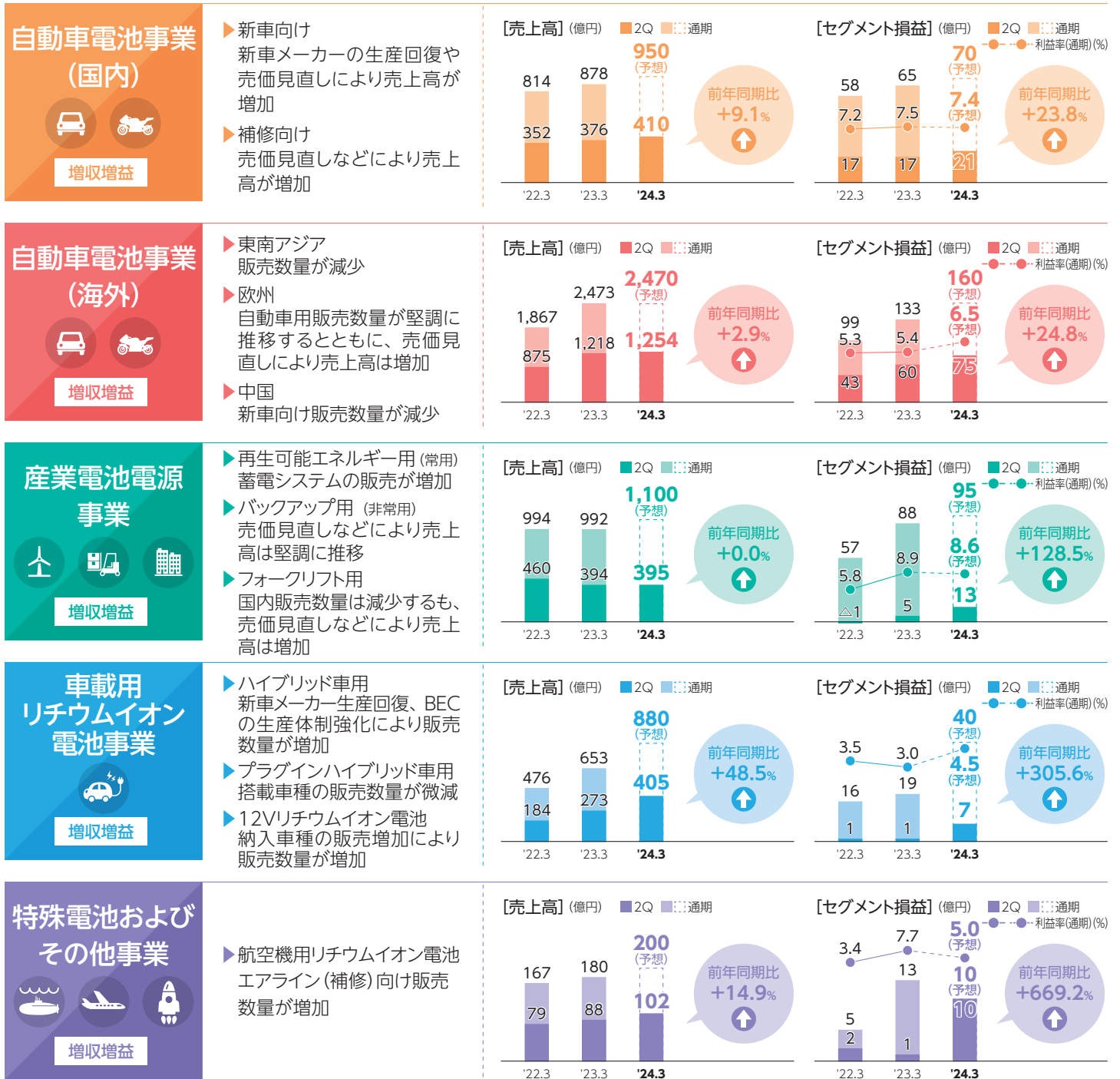
代表取締役
取締役社長 村尾 修

連結損益計算書

[当第2四半期(累計)] (2023年4月1日~9月30日) (億円)

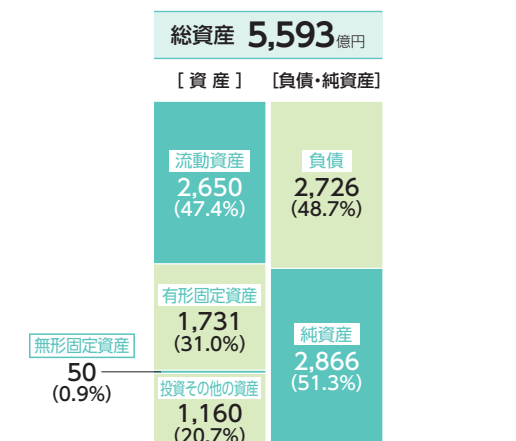


セグメント別連結業績



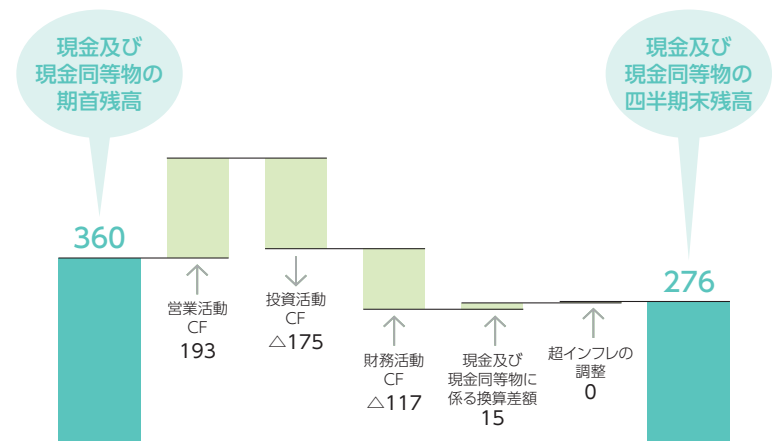
連結貸借対照表

[当第2四半期末] (2023年9月30日) (億円)



連結キャッシュ・フロー計算書

[当第2四半期(累計)] (2023年4月1日~9月30日) (億円)



ウーユア OOYOOとCO₂分離装置の開発・市場提供に向けた基本合意を締結 ～膜分離法を用いたCO₂の回収と再利用でカーボンニュートラル社会の実現に貢献～

株式会社 GSユアサおよび株式会社 GSユアサ メンブレンと、京都大学発のベンチャーである株式会社OOYOOは、CO₂の回収と再利用を可能にする高性能なCO₂分離膜装置の開発・市場提供に向けて基本合意を締結しました。今後、2024年度中にCO₂分離モジュールを製品化し、2年以内の市場提供を目標に開発を進めます。

昨今、温室効果ガス削減を目的としてCO₂を分離回収する技術が注目されています。今回開発を行うのはコスト面で優れる膜分離法によるもので、OOYOOの持つ最先端の高性能なCO₂/N₂分離膜(OOYOO Membrane Gen.1)の技術と、GSユアサ メンブレンが開発した、膜の性能を最大限引き出すことのできる新構造の高効率スパイラルモジュール*の技術を組み合わせ、省スペースかつ省エネルギーなCO₂分離装置を開発します。

この装置を用いて工場などからの排ガスやプロセスガスに含まれるCO₂を分離回収し、炭酸ガス、肥料やドライアイス、化学製品や燃料製造のための資源として再利用することで、カーボンリサイクル技術の確立に寄与し、カーボンニュートラル社会の実現に貢献します。

●3社の役割

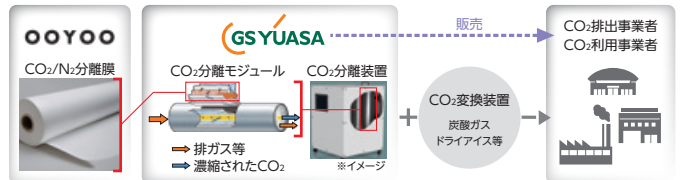
GSユアサ・GSユアサ メンブレン

- ・CO₂分離モジュール化技術の提供
- ・CO₂分離装置の開発

OOYOO

- ・高性能なCO₂/N₂分離膜(OOYOO Membrane Gen.1)の提供
- ・CO₂/N₂分離膜製造プロセスの開発

●ビジネスモデル



*スパイラルモジュールは、穴の空いた管(集ガス管)に、シート状の膜を巻き付けて製造されるモジュール。体積当たりの膜面積が大きくコンパクトかつガスの透過スピードが速いことが特長。GSユアサ メンブレンのスパイラルモジュールは、独自技術の採用により高効率・省エネルギー化を実現しています。

2023年10月4日のニュースリリースはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/news-release/163>



最適な地域戦略の構築へ ～中国における事業戦略を見直し～

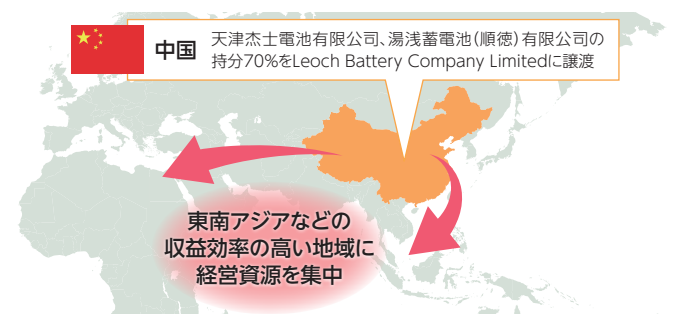
第六次中期経営計画の中国における事業戦略見直しの一環として、当社は2023年10月、連結子会社である天津杰士電池有限公司、湯浅蓄電池(順徳)有限公司それぞれの持分70%を中国事業会社 Leoch Battery Company Limitedに譲渡しました。

当社からの技術支援は継続しつつも、中国で同一事業において成功を収めている Leoch International 傘下の Leoch Battery に経営権を譲渡することが、最も有益な選択肢であると判断したためです。

今後は東南アジアなどの収益効率の高い地域に経営資源を集中させ、シェアの拡大と利益の最大化を目指します。

2023年7月25日のお知らせはこちら

https://ir.gs-yuasa.com/jp/ir/news/auto_20230725526524/pdfFile.pdf



社名	天津杰士電池有限公司	湯浅蓄電池(順徳)有限公司
事業内容	自動車用鉛蓄電池の製造販売	自動車用鉛蓄電池の製造販売およびオートバイ用鉛蓄電池の販売
出資者出資比率	GSユアサ 92.5% ⇒ 22.5% 広東湯浅蓄電池有限公司 7.5% ⇒ 7.5%	GSユアサ 100% ⇒ 30.0%
譲渡金額(概算)	約9.5億円(49百万円)	約30.8億円(158百万円)

英国王立造幣局にリチウムイオン電池と鉛蓄電池を組み合わせた新しい仕組みのエネルギー貯蔵システム(ESS)を納入

当社グループの英国拠点、GS Yuasa Battery Europe Ltd. は、イギリスの王立造幣局のマルチテクノロジー・エネルギー・センターにリチウムイオン電池と鉛蓄電池を独自に組み合わせたエネルギー貯蔵システム(ESS)を2023年8月に納入しました。同センターは、2MWの太陽光発電所、2基の風力タービン、熱電併給装置とESSで構成され、王立造幣局のエネルギー需要の約75%を賄います。このシステムはリチウムイオン電池の急速な放電と迅速な応答能力、鉛蓄電池のエネルギー供給における長寿命と堅牢性という2つの異なる特長を独自に組み合わせることで、最適なパワーシフトとエネルギー配分を可能にしました。



2023年9月1日のお知らせはこちら

<https://newsroom.gs-yuasa.com/topics/156>



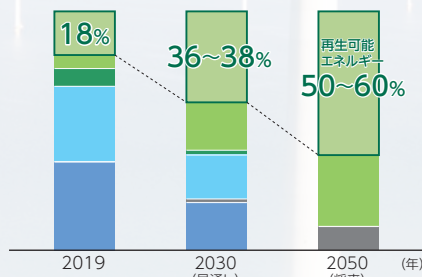


市場環境

カーボンニュートラルの動きが加速するにつれ、風力や太陽光などの再生可能エネルギーが注目されています。国内では再生可能エネルギー関連の補助金制度が多数発表され、さまざまな施策で導入・活用が促されています。このような環境下で、2050年には日本の電源構成における再生可能エネルギーは過半を占めると想定されています。

●国内の電源構成の推移予想

■天然ガス ■石炭 ■石油 ■原子力・その他
■再生可能エネルギー ■水素・アンモニア



出典：資源エネルギー庁「2050年カーボンニュートラルの実現に向けた検討」
「第6次エネルギー基本計画の概要」をもとに当社作成

●再生可能エネルギー関連の概算予算

▶系統用蓄電池等の導入及び配電網合理化等を通じた再エネ導入加速化事業

- ① 系統用蓄電池等の導入支援
- ② 計画策定・実証支援
- ③ 地域共生型再生可能エネルギー顕彰事業

令和5年度
概算要求額
100億円

▶需要家主導による太陽光発電導入促進補助金

再エネ利用を希望する需要家が、自ら太陽光発電設備を設置し、長期的に利用する契約を締結する場合は太陽光発電設備の導入を支援

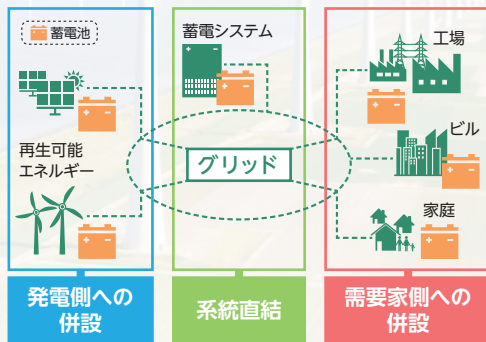
令和5年度
概算要求額
165億円

出典：経済産業省「令和5年度 資源・エネルギー関係概算要求の概要」



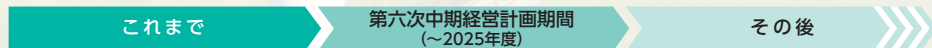
蓄電池の役割

再生可能エネルギーは、天候や時間帯によって発電量が大きく変動することから、安定性の面で電力系統に悪影響を及ぼす可能性があります。その出力変動を緩和する役割を果たすキーデバイスが蓄電池です。再生可能エネルギーが普及していく中で、その需給制御に欠かせない蓄電池の市場も急速に拡大していくと予想されており、当社にとっても大きな機会であると考えています。



GSユアサの戦略

パワーコンディショナや蓄電池をパッケージ化し、製品から施工、メンテナンスまでを一貫体制で提供できるAll in one ビジネスで、お客様への提供価値を高めるとともに、GSユアサの強みである「ネットワーク」「フットワーク」を生かすことで、常用市場での存在感を高めていきます。



パッケージ化

LEPS-2 モジュール 蓄電池盤 コンテナ

コンテナ体型ESS

蓄電池 + 遠隔監視サービス (STARELINKサービス*)

競争力強化
顧客満足の向上

All in one ビジネスの構築

蓄電池 + 遠隔監視 + 大容量PCS*によるサービス + All in one ビジネス

さらなる
競争力の強化

新型電池の開発

エネルギー密度を高めた
新型リチウムイオン電池

Honda-GS Yuasa EV Battery R&D
におけるリチウムイオン電池の
研究開発ノウハウを活用

*1 当社独自の遠隔監視技術と予測・予兆技術を駆使した保守サービスのこと。長期間使用される設備に必須である安定稼働と最適制御を維持するため、AIやDXを用いた予防保全サービスを提供しています。
*2 パワーコンディショナ

●GSユアサの強み

ネットワーク
DXを活用した
保守・運用サービス

フットワーク
24時間365日対応可能な
サポートサービス

主な納入・受注実績

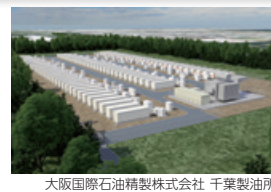
●ENEOS株式会社・室蘭事業所

事業者	ENEOS(株)
稼働	2023年度
出力	50MW
容量	88MWh



●大阪国際石油精製株式会社・千葉製油所

事業者	ENEOS(株)
稼働	2025年度
出力	100MW
容量	202MWh



●田川蓄電所 (福岡県田川郡香春町)

事業者	NTTアノードエナジー(株)・九州電力(株)・三菱商事(株)
稼働	2023年7月~
出力	1.4MW
容量	4.2MWh



●北豊富変電所 (北海道天塩郡豊富町)

事業者	北海道北部風力送電(株)
稼働	2023年3月~
出力	240MW
容量	720MWh



●本田技研工業株式会社・熊本製作所

事業者	本田技研工業(株)
稼働	2024年4月~(予定)
出力	2.6MW
容量	20MWh



●萩ヶ丘浄水場 (北海道稚内市)

事業者	北海道稚内市
稼働	2022年3月~
容量	2MWh



会社概要 (2023年9月30日現在)

商号	株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション (GS Yuasa Corporation)
事業目的	電池を中心とした事業を営む傘下のグループ企業の経営戦略を策定、統括し、グループの企業価値の最大化を図る。
設立	2004年4月1日
資本金	33,021百万円
本社所在地	京都市南区吉祥院西ノ庄猪之馬場町1番地 電話(075)312-1211
ホームページ	https://www.gs-yuasa.com/jp/
上場金融商品取引所	東京証券取引所 プライム市場

役員 (2023年9月30日現在)

〔株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション(純粋持株会社)〕

代表取締役 取締役社長	村 尾 修
代表取締役 取締役副社長	澁 谷 昌 弘
取締役	福 岡 和 宏
取締役	松 島 弘 明
社外取締役	大 谷 郁 夫
社外取締役	松 永 隆 善
社外取締役	野々垣 好 子
監査役(常勤)	古 川 明 男
監査役(常勤)	中 川 正 也
社外監査役(非常勤)	藤 井 司 (弁護士)
社外監査役(非常勤)	辻 内 章 (公認会計士)

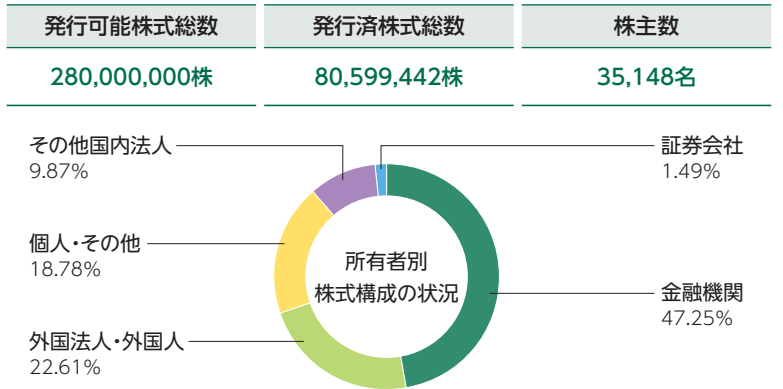
〔株式会社 GSユアサ(事業子会社)〕

代表取締役 取締役社長	村 尾 修
代表取締役 取締役副社長	澁 谷 昌 弘
常務取締役	奥 山 良 一
常務取締役	谷 口 隆
取締役	福 岡 和 宏
取締役	阿 部 貴 志
取締役	大 前 孝 夫
取締役	松 島 弘 明
取締役	野 瀬 佳 一
監査役(常勤)	古 川 明 男
監査役(常勤)	中 川 正 也
社外監査役(非常勤)	松 山 秀 樹 (税理士)

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	定時株主総会および期末配当:毎年3月31日 中間配当:毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル) [受付時間 9:00~17:00(土・日・祝祭日を除く)]
公告方法	電子公告とし、当社ホームページ(https://www.gs-yuasa.com/jp/ir/)に掲載いたします。ただし、事故その他のやむを得ない事由により電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式の状況 (2023年9月30日現在)



大株主(上位10名)

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	13,436,200	16.69
(株)日本カストディ銀行(信託口)	4,710,200	5.85
明治安田生命保険(相)	2,800,000	3.48
本田技研工業(株)	2,418,050	3.00
トヨタ自動車(株)	2,236,080	2.78
(株)三菱UFJ銀行	1,865,467	2.32
日本生命保険(相)	1,789,133	2.22
(株)京都銀行	1,548,069	1.92
三井住友信託銀行(株)	1,470,800	1.83
(株)三井住友銀行	1,421,703	1.77

※出資比率は、発行済株式数から自己株式数を減じた株式数(80,505,070株)を基準に算出しています。

株主さまアンケートご協力をお願い

当社では、株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、アンケートを実施いたします。お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願いいたします。
(所要時間は5分程度です)

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝(QUOカードPay500円)を進呈させていただきます

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です

①下記URLにアクセス ②アクセスコード入力後にアンケートサイトが表示

<https://www.e-kabunushi.com>
アクセスコード 6674

.....以下の方法でもアンケートにアクセスできます.....

検索窓から

kabu@wjm.jp ←こちらへ空メールを送信
「件名」「本文」は無記入。アンケートのURLが直ちに自動返信されます。

スマートフォンから
カメラ機能でQRコード読み取り
QRコードは株式会社デンソーウェブの登録商標です。



本アンケートは、株式会社リンクコーポレートコミュニケーションズの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。https://www.link-cc.co.jp

アンケートのお問い合わせ [e-株主リサーチ事務局]
MAIL: info@e-kabunushi.com